

ひょうたん山

小川クリニック 外来小児科センター



医療法人 小川クリニック小児科部門は
外来小児科センターとして生まれ変わりました！

本当に暑い夏でした。「過去に経験しない程の…」という表現で特別警戒警報が新しく設定されましたが、酷暑、豪雨、強風・竜巻など、今年65歳を迎えた私(院長)も経験しなかった事態です。長らく使われてきた「異常気象」という言葉もどこかへいってしまいました。本当に暑さに参った今年ですが、河内一ノ宮・枚岡神社の祭り(秋郷祭)翌日の寒さにまたビックリ！いよいよ風邪シーズンです。気をつけて下さい。

私は今年9月10日に65歳になり、インフルエンザワクチンの高齢助成対象の仲間入りになってしまいました。5年前は60歳・還暦でした。日本の文化のひとつ「還暦」とは、いわゆるゼロ(0)スタートで新たな人生をはじめることです。小川クリニックのゼロスタートは5年遅れてしまいました。いよいよホームページ開設に至りました。

小川クリニック 外来小児科センター ホームページを開設致しました。

ホームページのトップデザインです。ぜひご覧ください



小川クリニック ホームページ <http://www.hct.zaq.ne.jp/cpbsj600/>

検索

「小川クリニック」「外来小児科センター」「瓢箪山」などキーワード検索でもよろしく！

★★★受付時間★★★

	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00 12:00	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺
午後診 14:00 16:30	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺
夜診 17:00 19:30	☺	-	☺	-	☺	-	-

月・水・金の夜診も再開しました。

日本外来小児科学会・大阪府医師会・大阪小児科医会などの活動で長らく診療時間を制限してきました。今年の6月でほとんどの院外活動を終了しました。7月から火・木曜日の午後診も再開しました。10月からは月・水・金曜日夜診も再開致しました。午後診・夜診とも小児科診療が中心です。

インフルエンザワクチン接種は例年通り 10 月・11 月中に接種して下さい。
接種料金は大人 (1 回接種) 3000 円。子ども (2 回接種) 2000 円 (1 回) です。
接種希望の方はあらかじめ予約して下さい。
中学生以上は大人と同様 1 回接種でおこないます。ご希望があれば申し出て下さい。

小川クリニックでは昨年 7 月より小川智美医師による食物アレルギー外来をはじめています。まだ開始して 1 年ですが、乳幼児や子どもたち、そして保護者の皆さんのなかには食物アレルギーで困っている方が多いことに気づきました。月 2 回のアレルギー外来ではなかなか皆さんのご希望通りに診療できませんが、コツコツ続けていきたいと思っています。大阪小児科医会「新子育て通信」～食物アレルギー～の話題です。

「食物アレルギー」という言葉を聞かれたことがあると思います。人間が長い歴史のなかで選んできた食物は美味しく食べられ、身体にとって有害なことは起こしません。しかし、一部の人にとっては免疫学的反応で生体にとって不利益な症状が起こることがあり、この現象を「食物アレルギー」と呼んでいます。

この食物アレルギーは、現在 5 つのタイプに分類されていますが、乳幼児に多いのは「食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎」と「即時型反応」の 2 つのタイプです。前者はある食物を食べると湿疹が悪化し、止めると軽快するというものです。後者はある食物を食べるとすぐに (5 分～2 時間) じんましんが出たり、咳が出たりする反応です。ひどい場合は全身が真っ赤に腫れ上がり、息が苦しくなって命に関わるような怖い反応を起こすことがあります。これをアナフィラキシーと呼びます。

即時型 (アナフィラキシー) の原因食物は年齢によって異なり、乳幼児だと鶏卵・牛乳・小麦などが多く、学童から成人では甲殻類・魚類・果物・そば・ナッツ類などです。アナフィラキシーを起こした食物は除去する必要がありますが、鶏卵・牛乳・小麦などは年齢とともに食べられるようになることが多いです。



血液検査での特異的 IgE 抗体検査 (RAST スコアがよく使われています) は、どの食物がアレルギーを起こしやすいかと、どのくらい起こしやすいのかの参考にはなりますが、絶対ではありません。実際にアレルギーの原因となる食物を食べて即時型反応を起こしたとか、起こさなかったということが食物アレルギーの診断を決めます。この診断のためにはアナフィラキシーを起こす危険がありますが、起こった時に対応できる医院や病院で「食物経口負荷試験」をおこなう必要があります。この食物経口負荷試験は「負荷試験」、「チャレンジテスト」などと呼ばれます。アレルギー検査には血液検査や皮膚検査など様々な検査法がありますが、ある特定の食物を食べられるかどうかを確実に判定できるものではありません。そこでかかりつけ医が症状を観察しながら、目的とする食物の食べられる量などを決めるために食物経口負荷試験をおこないます。この検査により、食べられるかどうかを判断します。これをしたら食べられるようになるという訳ではありませんのでよく理解してください。

次に経口免疫療法についてのお話です。「免疫療法」や「減 (脱) 感作療法」などと呼ばれ、アレルギー症状を起こす原因食物について、個人個人によって異なる閾値 (アレルギー症状を起こす最小限の量) を決定し、少量ずつ計画的に食べていくことで、アレルギー症状を出ないようにするという「治療」のひとつです。しかしその間にアナフィラキシーなどの急激な症状を起こす可能性もありますので安全性の確保が重要です。したがって自宅で少しずつ食べて慣らすということは決してしないでください。

乳幼児の食物アレルギーは成長とともに良くなることが多いです。でもなかなか食べられるようにならず、これからどうすればいいのか困っているお父さんお母さんもたくさんおられると思います。自分たちだけで悩まず、まずはクリニックに相談してみてください。すっかり治るわけではありませんが、うまく付き合える方法を見つければ子どもさん・親御さんにとっても大助かりです。私たちにも…。

